

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570608505		
法人名	有限会社テレサ		
事業所名	グループホームテレサ		
所在地	秋田県男鹿市脇本脇本字向山166番地12		
自己評価作成日	令和4年11月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.akita-longlife.net/evaluation/">http://www.akita-longlife.net/evaluation/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年1月18日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員全員が利用者個々の能力や状態を理解し、利用者本位のケアができるよう質の向上に努め、入居前の生活と変わらぬ生活が維持・継続できるように、介護計画を作成し、サービスの提供に力を入れている。  
 ・秋田湾を望む高台に立地し、好天時は霊峰鳥海山を眺望でき、自然環境に恵まれた男鹿国定公園内にあり、鶴ノ崎海岸・入道崎・大湊村といった観光地に恵まれ、四季折々の風景を堪能できるところが、アピールポイントです。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナウィルス感染防止のため活動の自粛が続いていますが、運営法人創立記念の花火大会で打ち上げ花火を楽しみ、馴染みのボランティアによる昔語りや披露される敬老の集いも開催されて、利用者の喜ぶ顔を見ることができました。日々の支援が理念の実践に繋がっていることを職員は認識しており、コロナ禍で利用者の思いに応えることができないことが多々ありますが、可能な限り対応できるよう努力しています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,16) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果 東棟

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を立ち戻するための意識付けとして、常に意識して取り組んでいる。	介護計画も理念を基本に立案しており、職員は理念の内容を理解し、日々の支援が理念に繋がっていることを認識しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は減少している。散歩時、近隣の方々や下校中の小学生と挨拶を交わしたり、運動会を見学している。地域で行われた花火大会を見学したときは、顔なじみの地域の方々から声をかけて頂き思い出を語り合うことができた。	感染防止に努めていることから交流の機会は減少していますが、ホームの催し等ではできる限りその機会の確保に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	できるだけ外に出る機会を持ち、地域の方々と言葉を交わし、顔の見える関係を築いている。 認知症失踪者の早期発見ネットワークに協力している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、書面報告となっているが、テレサの行事報告、事業報告を行い、意見を頂くよう務めている	会議は書面での対応が続いています。ホームの現状等の資料郵送にとどまっておらず、会議メンバーの意見収集には至っておりません。	地域の理解と支援を得ることが運営推進会議の意義の一つでもあることから、書面会議ではあっても、運営に活かすためにも、意見を収集する工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当窓口に出向いたり、電話での相談をするなど、連携を図りながらサービスの提供に努めている。また、地域包括支援センター主催の研修に積極的に参加し協力体制を構築している。	更新申請や手続等の事務的なことは施設長が行っており、両ユニットの管理者が包括支援センターと関わることで行政との協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を通して理解できている。身体拘束委員会や介護スタッフで十分話し合い、常に解除に向けた取り組みをしている。やむを得ず行う場合には、記録を残し同意書を頂いている。	研修を行うことで理解に繋げ、状況に応じて対応しています。やむを得ない場合も家族と話し合いを続け、経過記録を残しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で学び理解している。 御家族の協力に対応できている。成年後見人制度を利用しているため支援している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入居者の契約の際に、重要事項の説明をしご家族の理解と合意を得て納得して頂いている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	運営推進委員会の委員には、ご家族代表の方もおり、要望などを出していただき、直ちに施設運営に反映させるように努めている。	状況報告、介護計画作成時に電話で話し、意見の引き出しに努めています。ズームで面会できる環境をつくってほしいとコロナ禍を反映した要望がみられています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月1回管理職職員会議実施し、会議の内容を職員会議で報告し、運営・ケアに関する意見交換し、運営に関して反映させている。	職員の意見は管理職会議を通じて法人に伝えられています。意見が反映されないことが多くなったと感じているようですが、より良い支援に向けた意見、要望が多く出されているようです。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型であり、男鹿市内の他のグループホームとお互い情報を交換し空室情報や職員研修、事務手続きなど行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では必ず2名の職員で訪問し、ご本人と十分な説明を行い、その情報を職員全員で確認し事前に検討している。新規入居者様の安全・安心が図られるよう環境づくりに努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様の困りごとや、心配事について話し合い、信頼関係を構築している。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニット全員と職員が家族であると認識して、全員で一緒に暮らす家族として、その輪を築いている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族も本人もお互いを必要とし、心が通じ合っている。外出や外泊を望むご家族もいるが、現在の状況ではできていない。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	電話での交流が以前より増えている。また、携帯電話を所持しているご利用者様もいて関係の継続を図っている。毎月の状況報告に一言記入して頂いたり、ご家族様からの手紙を代読し交流できるように支援している。	家族に限らず、友人とも電話交流をしています。帰宅が叶わない利用者もありますが、通院同行や玄関先での面会等、関係継続のために積極的に協力してくれる家族もいます。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が加わり、お互いの交流をサポートできるように支援している。利用者同士がお互いにできないところをサポートし、声を掛け合う姿が日常的に見られている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院などへ入院又は施設入所後も、入居者との関係を大切にしている。家族と連絡を取りながら直接訪問したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に、本人・家族等の希望を充分取入れ作成して、本人の意向を把握できている。また、日々の生活での気づきを記録し、共有して毎日の申し送りでモニタリングしている。	あらためて聞くよりも通院時や入浴介助時等の日常生活の中で本人の気持ちを聞くことができ、その時間を大切にして内容を職員間で共有しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査は本人・家族・担当のケアマネージャーからの聞き取りなどで生活歴や馴染みの生活状況を把握しプラン作成に生かしている。普段の会話や生活で気づいたことをその都度家族に伝え、これまでの生活歴を知ることがある		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	現在の状況を職員全員で話し合い、家族に都度伝えている。本人、家族から話を伺い、希望に沿ったホームでの生活が送れるよう、職員の意見も反映させた、ケアプランを作成している。	カンファレンスを行い、評価に基づいた介護計画の見直しをしています。本人、家族の意向を反映させて介護計画を作成しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	職員は様々な日々の様子や対応について、記録することができており、それを全員で確認している。職員会議や申し送りで常に検討し合い、実践し、介護計画の見直しに生かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内に公園もあり、この公園から秋田湾が一望でき、遠くに鳥海山も望め入居者様の心身の癒しを支援している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医で継続し、その後の状態により家族と話し合い対応している。訪問歯科、協力医との連携や薬局を統一し薬剤師との信頼関係を構築している。	入居前からの医療機関で受診を継続しており、家族が同行している時もあります。訪問歯科診療の対応も可能であり、適切に医療が受けられるよう支援しています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、施設看護師へ健康状態を報告し、直接利用者と接しながら、確認している。受診時のアドバイスや服薬についての相談体制もできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には、利用者の心のケアを大切にしながら、病院の主治医・看護師・医療相談員の連携を充分に取り、医療機関との関係づくりに努めている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び終末期を想定しながら、家族又、医療機関及び施設看護師でその支援づくりに取り組んでいる。	入居時に終末期の支援ができないことを伝えていますが、長期利用者の家族から看取りを希望されることがあり、あらためてホームで対応し得るケアについて説明しています。利用者の状態の変化に応じて家族と話し合い、次の支援に繋げています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に急変や事故発生を念頭に置き、職員全員が初期対応を考え職務にあたっている。また、避難訓練を定期的実施して有事に備えている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、昼夜問わず緊急時連絡体制一覧表に沿って行動できるように心がけ、地域住民との協力体制を図っている。また、地元建設会社と防災協定を結び利用者の安心と安全を構築している。	コロナ禍で地域の方を交えた避難訓練の実施は難しくなっているということもあり、現状ででき得る訓練を行っています。	全職員が参加していることから、訓練の仕方を見直すと共に建物内外の設備を再確認し、全職員で意見を出し合って利用者、職員が安全に避難できる訓練の実施を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシー保護には十分配慮し、入居者の尊厳を大切に言葉遣いに配慮している。	在籍期間の長い職員が多いことから、馴れ合いの態度にならないよう気をつけています。排泄時や入浴時の介護にあたっては利用者の気持ちに配慮した言葉遣いを心がけています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みや、自宅にいるときに、その日に相応しい身だしなみやお洒落ができるように支援し、美容師の受け入れや理髪店に出掛けたり支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好などを事前の調査で確認し、それを活かした食事提供と職員と入居者が一緒に準備盛り付け・片付けを楽しんでいる。また、行事食や季節の食材を取入れた食事も提供している。	山菜の下処理や盛り付け等を手伝っていたき、行事食で季節を感じていただいています。また、園庭の東屋で流しそうめんを行う等、楽しんで食事ができることも企画して支援しています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分補給については、特に配慮し、職員が常に入居者を観察し一人ひとりの状況や習慣に応じた支援をしている。水分補給に制限のある入居者には、マグカップ等を小さくしたり工夫をしている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きができるように支援している。声かけでできる方には声かけで、自身でできない方は介助で口腔ケアを支援し、必要な方には、洗口液や歯間ブラシを使用している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、日中と夜間の個別対応に十分配慮し、トイレ誘導などに気配りしている。トイレでの排泄については、必ず職員が見守りしている。	排泄パターンを確認して個々の状態に合わせて対応しており、尿路感染症状が減少しています。排泄用品の使用にかかる費用については状態の変化に応じて家族に説明しています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による体調変化に常に気を配り、水分補給や運動など生活の中で注意している。配置看護師へ相談し個々に合わせた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	バイタルチェックや本人の意向表示や体調の具合を確認して、曜日や時間帯を設定して楽しい入浴時間としている。	浴槽をまたぐことができない方も多くなり、入りたがらない方もいて様子をみながら入浴していただいています。足浴や水虫の処置等、状況に応じて清潔が保てるよう支援しています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく睡眠できるように、医師、配置看護師に常に相談できる体制があり、安眠を支援している。休息については、居室でテレビを見たりホールのソファなどで過ごす方もいる。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、入居者全員が同じ薬局を利用しており、薬剤師が配達し服薬方法など、医療機関への問合せなども行っている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、誕生会や敬老の集いなど行事、外出支援をしている	入居者それぞれに合った役割分担があり、できる部分をお互いに協力している。また、誕生会や敬老の集いなど行事、外出支援をしている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好天時には外出する機会が多くあり、車椅子の入居者も出かけている。普段は行くことができない場所へも行ったり大変喜ばれている。ご家族の負担にならないように職員で実施している。	天候をみて出かけることが多くなっています。ドライブでは車窓から外の景色を楽しみ、両ユニットで協力し合って周辺を散歩しています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金管理規定により入居者が自由に使用できるように支援している。ご家族の同意を得て、小口現金を所持している入居者もいる。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはソファ等を配置し、入居者が快適に過ごせるように配慮し、大型の加湿器を設置して、温度、加湿など冬期間の感染症予防などに工夫している。	適切に温度管理されたホールで日中を過ごす利用者が多く、食卓やソファが配置されていて、利用者同士が賑やかなひと時を過ごしています。脱衣室は狭いものの、腰を掛けるスペースは確保できています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で一番心地良い場所を理解し、提供できるようにし、気の合う方と過ごせる場所を作っている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、入居者に与えられた自分の部屋として、在宅時の使用していた好みの家具など自由に持ち込み、居心地の良い居室に工夫している。	状態の変化に応じてベッドの配置や窓に工夫し、環境を整えています。心身機能の低下によって家族の思いが届かないこともありますが、職員は家族の思いを受け止めつつ本人の意向に沿って見守り、対応しています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力・能力を活かすため、施設内の掲示板を活用し、それぞれが製作した物や写真が飾られたり、入居者が喜ぶ工夫をしている。		